

# 令和7年度バリューチェーン全体での脱炭素化推進モデル事業

エンゲージメントによるGHG排出量削減計画

本モデル事業の活動結果報告



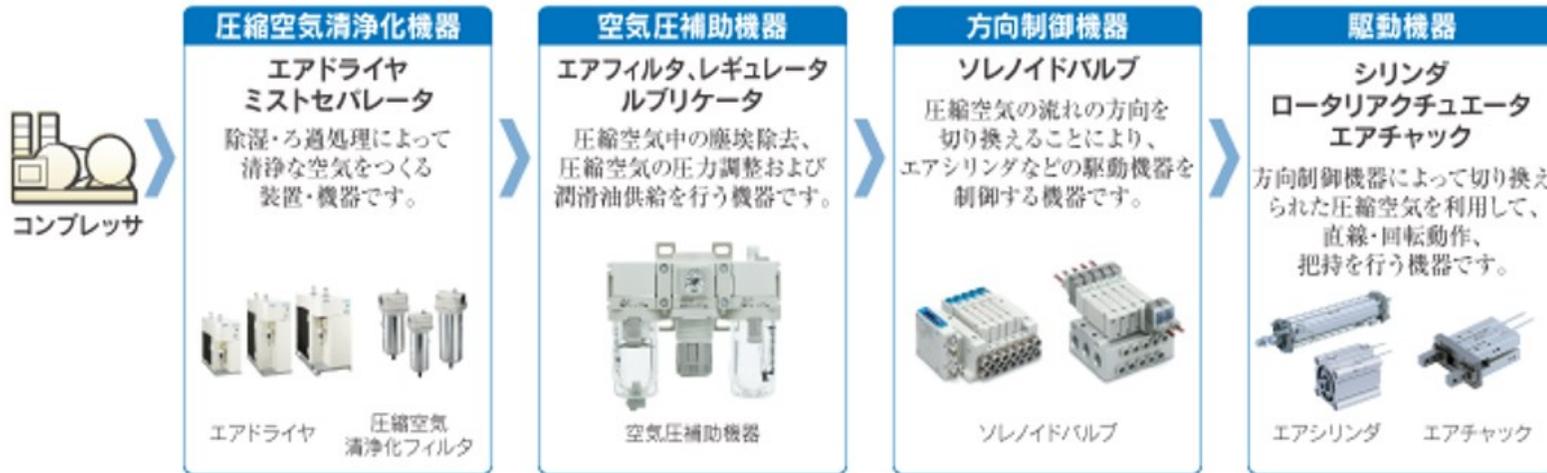
2026.03.05

SMC株式会社 山田 博介

# 1. SMC株式会社とモデル事業応募のきっかけ

FAなどの空気圧機器を中心に、自動化や省力化に貢献する製品の開発から製造・販売

SMCは88万の製品群で世界500拠点を展開し、ワンストップショップを実現するグローバル企業



## 【ESG活動】

“Scope 3 を2030年までに33%削減” の目標を情報開示

Scope3削減プロジェクトを立ち上げて活動

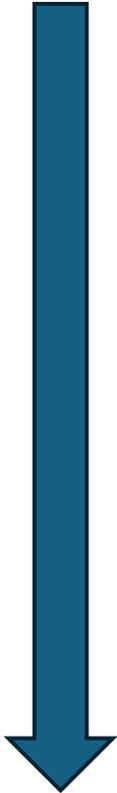
削減方針の一つ： サプライヤエンゲージメントによる削減

本モデル事業と目指す方向が一致して応募

## 2. モデル事業での活動内容と進め方

パートナー企業様： 各業種の傾向をみるために代表的な4業種から選定

進め方

- 
- ①算定 ⇒ SMCからフォーマット提供して算定し、ホットスポットを見定め
  - ②削減計画 ⇒ 公的な省エネルギー診断を活用  
ダイキン工業様、SMCによる省エネ講習会を実施
  - ③定量化 ⇒ SMCで計算の技術サポート
  - ④導入リスクと実現性を評価
  - ④優先順位付け ⇒ 費用対効果を可視化するMACカーブを活用
  - ⑤2030年までの削減計画ロードマップを作成

モデル事業ゴール

### 3. 算定結果

#### 算定結果のまとめ

- ① **熱源を持つ設備**はエネルギー由来のGHG排出のホットスポット
- ② 全般的に**購入する材料や部品由来**の排出がホットスポット

モデル4社 GHG排出量集計と削減計画まとめ

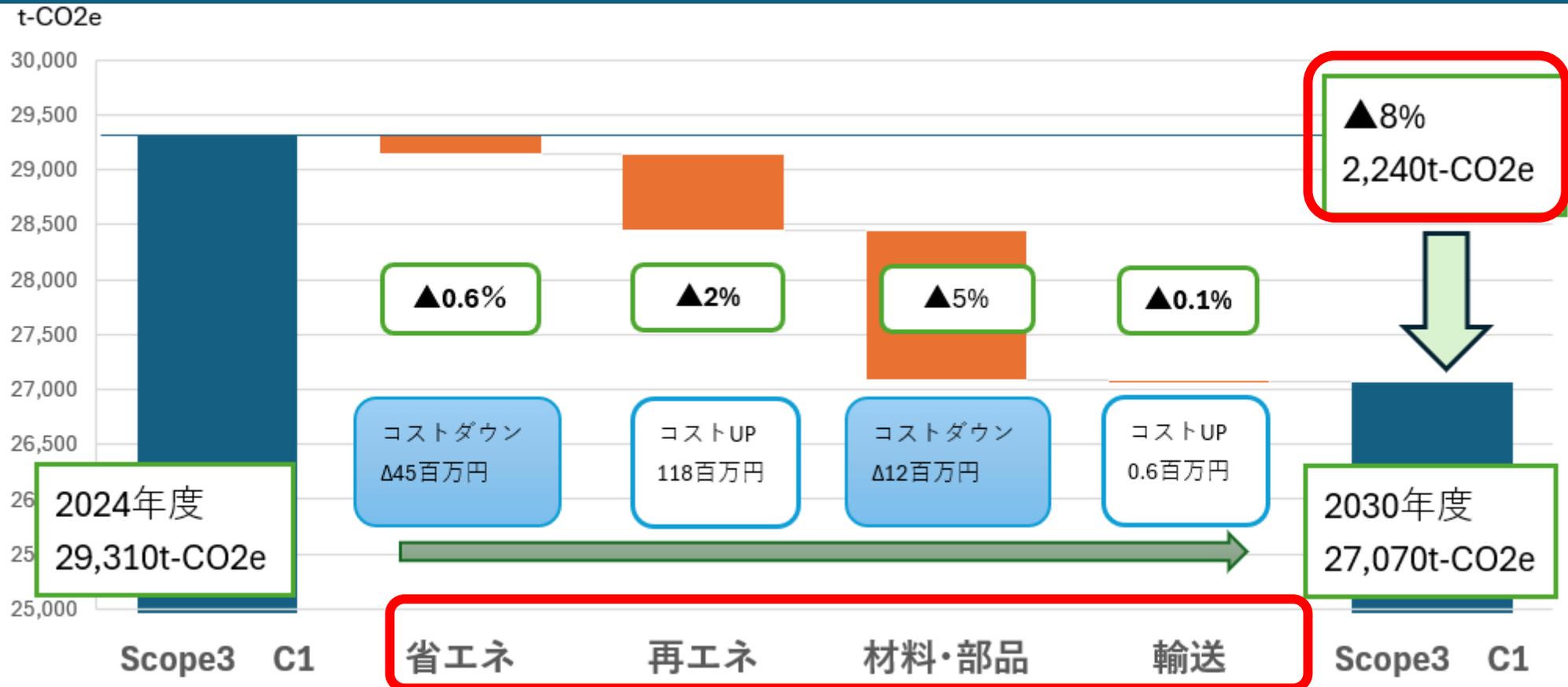
ホットスポット

		活動量	A社	B社	C社	D社
			電子部品組立	ゴム部品成形	樹脂部品成形	金属処理・塗装
			%	%	%	%
自社排出	Scope1	物量基準	4%	0.3%	0.1%	<b>熱源 43%</b>
	Scope2(マーケット基準)	物量基準	2%	18.4%	<b>熱源 35.0%</b>	27%
Tier2以前のサプライヤ排出	Scope3	C1 材料・部品	94.0%	40.9%	37.2%	5%
		C1(その他) + C2~4 その他		36.3%	26.4%	19%
		C5(廃棄物)	0.2%	2.8%	1.3%	5%
		C6+C7	0.1%	0.9%	0.0%	0%
		C8	0.0%	0.4%	0.0%	0%
サプライヤ排出量合計			100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

# 4. 2030年までの削減計画

## 削減計画(省エネ・再エネ・材料部品・輸送に分類)

- ・ 当初想定した省エネベースの削減計画は大きな削減が難しかったがコスト削減につながり積極的な計画ができた
- ・ 材料の無駄を改善する計画は効果的でコスト削減にもつながった



## 5. まとめ

- ① 本モデル事業結果をサプライヤ様全体に横展開すると  
**Scope3 C1の約8%を削減できる**ポテンシャルが確認できた
- ② 省エネと材料の無駄改善によるGHG削減計画は  
**コスト削減**にもつながった

		SMC Scope3 C1	サプライヤ様 600社横展開
2024年度排出量	t-CO <sub>2</sub> e	1,156,000	1,156,000
2030年度削減量	t-CO <sub>2</sub> e	380,000 目標	97,000 ポテンシャル
2030年度削減率	%	33%	8%

### ■ 課題

- 算定と削減計画の合理的な進め方を検討して標準化
- 省エネ施策のガイドラインと材料由来排出量削減の深堀
- MACカーブの標準化

### ■ 実行フェーズへの移行

- 本モデル事業での課題を改善し、2026年度に先行30社へ横展開
- コストメリットを含むGHG削減手法のさらなる研究  
：2030までにVC全体での総合競争力をUP

本モデル事業での関係スタッフ様および  
関係各社様のご協力本当にありがとうございました

